

(限 内 部)

1061

海軍公報（部内限）號外

昭和十四年十一月九日（木）

海軍大臣官房

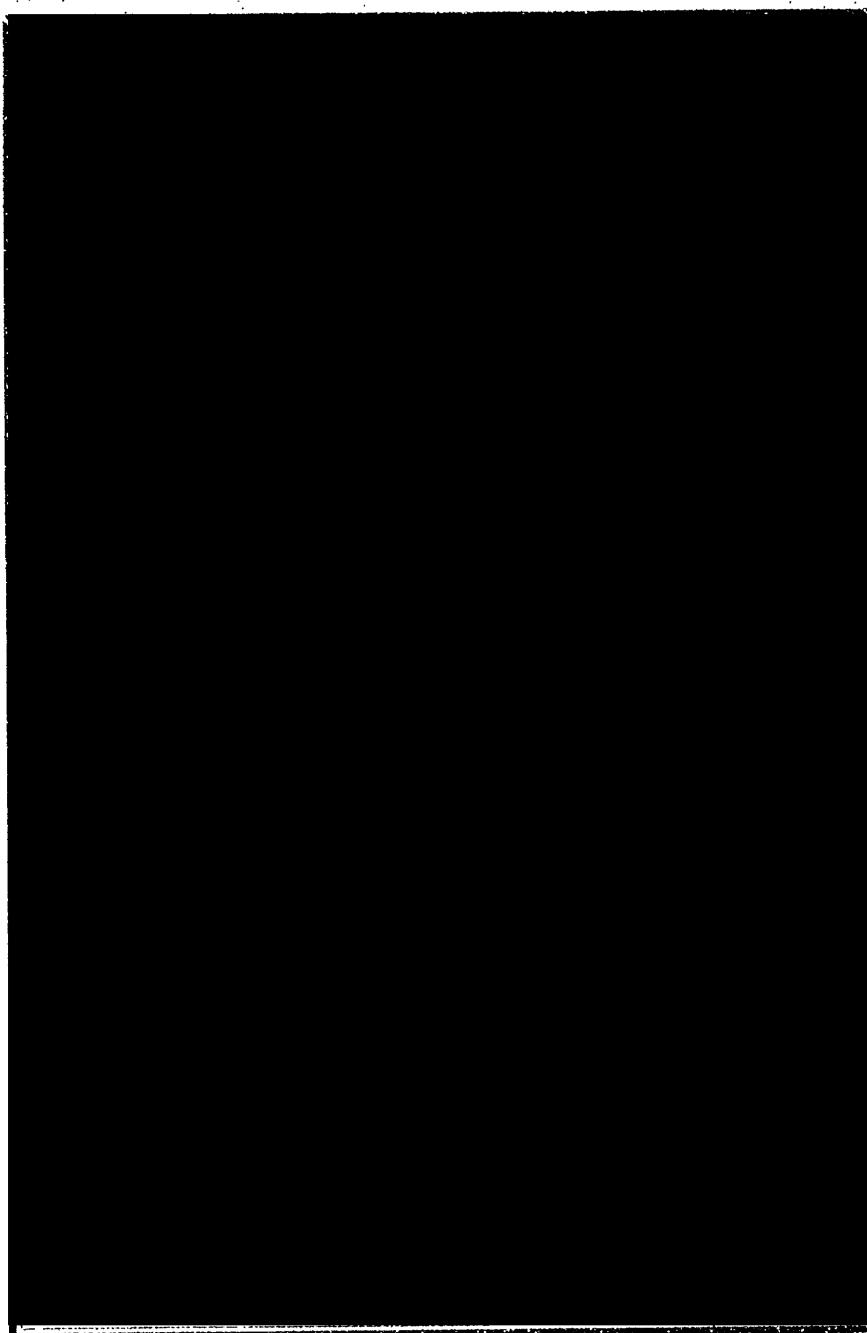
○判決

判決

海軍公報（部内限）號外

1062

海軍公報
(部内限) 號外



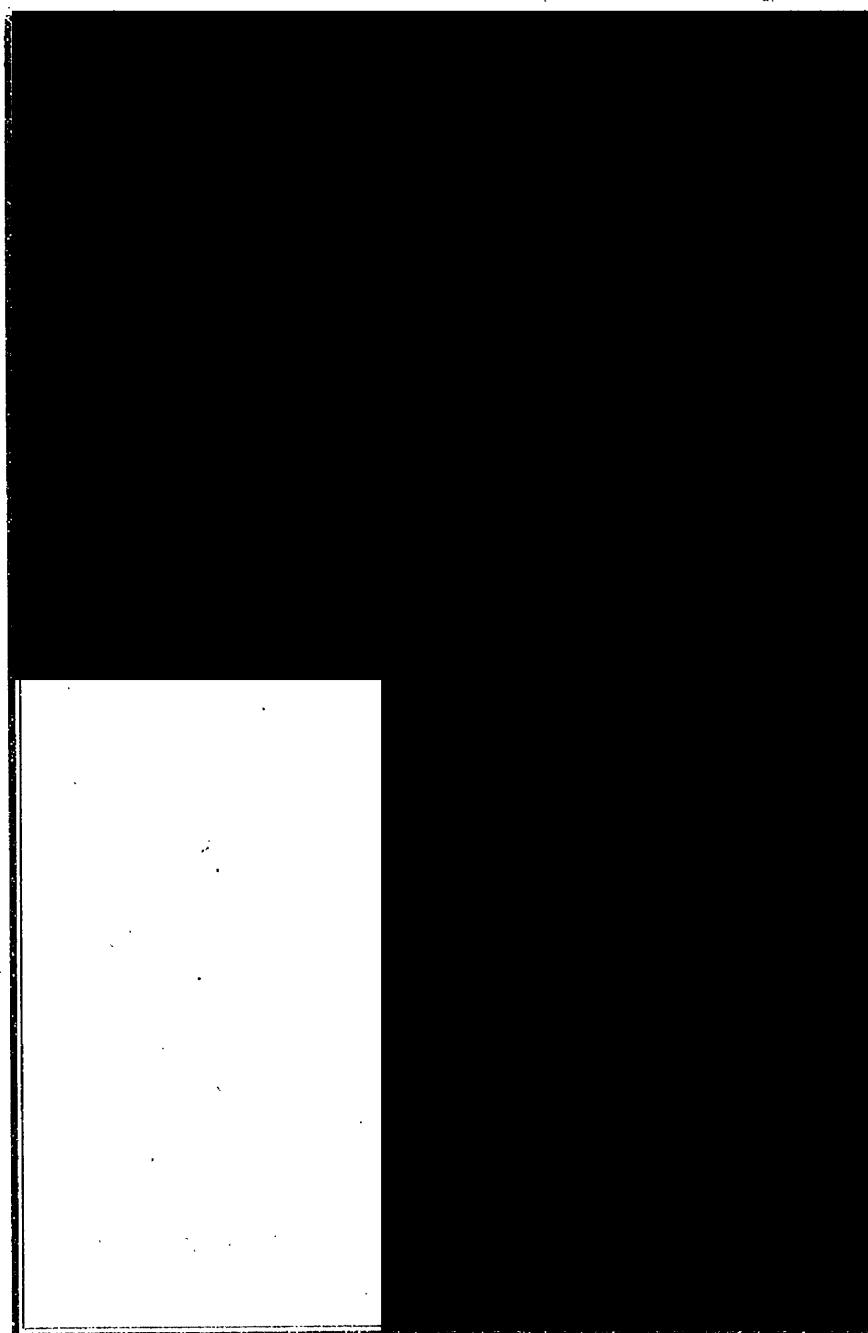
1063

海軍公報（部内限）號外

1064

海軍公報
(部内限) 號外

四



海軍公報

(部内限) 第三千三百五十六號

昭和十四年十一月十日(金)

海軍大臣官房

○通牒

官房第五六〇九號

昭和十四年十一月一日

海軍次官

關係各廳長殿

艦裝員赴任出張ニ關スル件通牒中改正

ノ件通知

大正六年官房第一八〇號首題通牒追書ヲ削除ス

經調第一一七號

昭和十四年十一月一日

海軍省經理局長

支
資金前渡官吏
出任出納官吏

監督官及艦裝員等ノ旅費ニ關スル件通牒

今般内地ニ在ル各海軍監督官事務所ニ新ニ資金前渡官吏ヲ置キ監督官及艦裝員等ニ要スル旅費ノ支拂ヲ爲サ

海軍公報(部内限) 第三千三百五十六號

昭和十四年十一月十日

一一八九

シムルコトト相成候ニ付テハ左記ニ依リ處理相成度

記

一 監督官(造船造兵監督官令ニ依ル職員及補助工員ヲ總稱ス以下之ニ同ジ)又ハ部外ニ於テ製造スル艦

船ノ艦裝員(艦裝員令ニ依ル職員ヲ總稱ス以下之ニ同ジ)ヲ命ゼラレ其ノ駐在地又ハ艦裝地ニ出張スル者ニ支給スル旅費ハ出發ノ日ヨリ目的地ニ到着ノ日迄ノ旅費(到着ノ日ノ宿泊料ヲ含ム)ニ限り出發廳ニ於テ之ガ概算拂ヲ爲スコトヲ得

二 監督官又ハ艦裝員(艦裝地ニ別ニ臨時資金前渡官吏ヲ置カレタル場合ヲ除ク)ニ支給スル滯在旅費又ハ前號以外ノ出張旅費ハ當該駐在地ニ在ル資金前渡官吏又ハ當該艦裝地ヲ受持區域トスル監督官ノ駐在地ニ在ル資金前渡官吏ニ於テ之ヲ支給ス

三 監督官又ハ艦裝員轉勤(補助工具ニ付テハ復歸)ヲ命ゼラレ駐在地又ハ艦裝地ヨリ直ニ轉勤(補助工具ニ付テハ復歸)スル場合ノ旅費ハ前號ノ支給區分ニ依リ之ガ前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

海軍公報(部内限) 第三千三百五十六號 昭和十四年十一月十日

一一九〇

四 駐在地ニ在ル資金前渡官吏ハ第一號ニ依ル旅費ノ

概算拂ヲ受ケタル者到着セルトキハ速ニ旅費精算ニ
要スル資料ヲ舊勤務廳ノ支出官又ハ資金前渡官吏

(分任出納官吏ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ送付ス

五 第一號ニ依リ概算拂ヲ爲スニ要スル支拂豫算ハ豫

メ之ヲ關係支出官ニ令示シ置カルルヲ以テ出發廳ノ
資金前渡官吏ハ必要ニ應ジ當該支出官ニ付前渡資金
ノ受入ヲ爲ス(各艦隊經費ノ分任出納官吏ニ在リテ
ハ同主任出納官吏又ハ同分任出納官吏ニ付分割交付
ヲ受ケ又ハ科目交換ヲ爲ス)

六 關係支出官ハ年度經過後直ニ別紙様式ニ依ル監督
諸費決算書及艦裝員旅費艦別決算書ヲ作成シ艦政本
部長(航空關係ニ付テハ航空本部長)ニ送付ス

(別紙添)

○辭令

(通名)	參百拾參圓	關東局技師	塙本 精太郎
貳百圓	同	西本 八十一	
五拾圓	關東局事務官	河合 勝	
	關東氣象臺技師	草間 茂登	
	關東局技師	丸山 悅三	

參拾貳圓 同 德永 氏吉

旅順要港部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(母方海軍省)
旅順要港部ニ於ケル事務囑託ノ報酬トシテ各頭書ノ
通ヲ給ス

海軍軍事普及部委員ヲ命ス
支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ス
海軍大佐 中村 一夫

大使館參事官 赤木 親之
海軍特務少尉 濱田 英吉

(各通)

海軍省事務囑託ス(以上廿四同)
海軍主計大佐 長妻 篤鶴

東京海軍監督官事務所及受持區域內ニ在ル艦裝員事
務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス
海軍機關中佐 松末 元完

浦賀海軍監督官事務所及受持區域內ニ在ル艦裝員事
務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス
海軍主計中佐 大橋 丈夫

名古屋海軍監督官事務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金
前渡官吏ヲ命ス

海軍主計少佐 南 了

大阪海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス	海軍主計大佐 服 部 薫 同 同	三代辰吉
神戸海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス	海軍機關中佐 倉本 誠至 同 同	西川亨
廣島海軍監督官事務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス	海軍機關中佐 倉本 誠至 同 同	西川亨
八幡海軍監督官事務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス	海軍主計中佐 川村 久三郎 同 同	西川亨
長崎海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艦裝員事務所ニ要スル旅費支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス(以上十一月廿四日支出官海軍省經理局長)	海軍機關中佐 西山 健藏 同 同	西川亨
第二部勤務ヲ命ス	海軍中佐 土井 美二 同 同	西川亨
第二部第四課勤務ヲ命ス	海軍少佐 松木 通世 同 同	西川亨
第一部第二課勤務ヲ命ス	海軍少佐 松木 通世 同 同	西川亨
第一部第一課勤務ヲ命ス	軍令部出仕同 同 同	西川亨
第四部第十一課勤務ヲ命ス	軍令部出仕同 小柴 直貞 同	西川亨
(各通)	軍令部出仕海軍少佐 佐野 重士 泉 雅爾 同	西川亨
第四部第十課勤務ヲ命ス(以上廿四日軍令部)	海軍大尉 中村 英夫 小澤 英夫 同	西川亨

海軍公報(部内限)第三千三百五十六號

昭和十四年十一月十日

一一九一

海軍公報（部内限）第三千三百五十六號 昭和十四年十一月十日

一一九二

報道部第一課勤務ヲ命ス	海軍中佐 高塚 忠夫
（各通）	海軍少佐 皆川 延利
參謀部第一部第二課勤務ヲ命ス	有泉 龍之助
參謀部第三部第六課勤務ヲ命ス	小柴 直貞
通信部第十一課勤務ヲ命ス	小澤 英夫
參謀部第三部兼報道部第二課勤務ヲ命ス	福島 榮吉
通信部第十課勤務ヲ命ス	佐野 重士
參謀部第三部第八課勤務ヲ命ス	海軍大尉 吉田 俊雄
（各通）	海軍中尉 中館 明正
通信部第十課勤務ヲ命ス（以上廿四 大本營海軍部）	野口 新逸

○司令驅逐艦復歸
第五驅逐隊司令ハ十一月八日司令驅逐艦ヲ旗風ヨリ奉
風ニ復歸セリ

○司令潛水艦變更
第十二潛水隊司令ハ十一月八日司令潛水艦ヲ伊號第六
十八潛水艦ヨリ伊號第六十九潛水艦ニ變更セリ

○郵便物發送先
第一驅逐隊、野風、波風宛
十一月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 橫須賀
其ノ後ハ 大湊

第十一驅逐隊司令、軍醫長、主計長、吹雪、白雪宛
自 今 佐世保郵便局氣付

初雪宛
自 今 吳

第二十驅逐隊宛
自 今

追テ司令、主計長宛
機艤長宛
軍醫長宛
夕 朝 天 雾 霧 霧 霧

第十一掃海隊宛（第十三號掃海艇缺）
十一月十三日迄ニ到達見込ノモノハ
第三海軍軍用郵便所氣付

○ 雜 款

其ノ後ハ

第十三號掃海艇宛

吳

十一月十日迄ニ到達見込ノモノハ

同十三日迄ニ 同 第三海軍軍用郵便所氣付
其ノ後ハ 旅順要港部氣付○懲罰
懲罰言渡書

1070

海軍公報（部内限）第三千三百五十六號

昭和十四年十一月十日

一一九四

○正誤
十一月八日辭令欄中「海軍機關少佐 伊藤善六」ハ
「海軍機關少佐 伊藤膏六」ノ誤

1071

(別紙)

昭和 年度

艦政關係(又ハ航空關係)監督諸費決算書
(又ハ艦裝員旅費艦別決算書)

(昭和十四年十一月十日公報(部内限))

支 出 官 何々々

科	目	豫 算 額	支 出 額	残 額	記 事
艦艇製造費		三			
監督諸費		四			
(造船費)		五			
第 號 艇		六			
		七			
		八			
		九			
		十			
		十一			
		十二			
		十三			
		十四			
		十五			
		十六			
		十七			
		十八			
		十九			
		二十			
		二十一			
		二十二			
		二十三			
		二十四			
		二十五			
		二十六			
		二十七			
		二十八			
		二十九			
		三十			
		三十一			
		三十二			
		三十三			
		三十四			
		三十五			
		三十六			
		三十七			
		三十八			
		三十九			
		四十			
		四十一			
		四十二			
		四十三			
		四十四			
		四十五			
		四十六			
		四十七			
		四十八			
		四十九			
		五十			
		五十一			
		五十二			
		五十三			
		五十四			
		五十五			
		五十六			
		五十七			
		五十八			
		五十九			
		六十			
		六十一			
		六十二			
		六十三			
		六十四			
		六十五			
		六十六			
		六十七			
		六十八			
		六十九			
		七十			
		七十一			
		七十二			
		七十三			
		七十四			
		七十五			
		七十六			
		七十七			
		七十八			
		七十九			
		八十			
		八十一			
		八十二			
		八十三			
		八十四			
		八十五			
		八十六			
		八十七			
		八十八			
		八十九			
		九十			
		九十一			
		九十二			
		九十三			
		九十四			
		九十五			
		九十六			
		九十七			
		九十八			
		九十九			
		一百			

備考

- 一 艦別ハ細節科目表ノ順序ニ依ルモノトス
- 二 監督諸費決算書ハ艦政關係ト航空關係トヲ各別紙ニ作成スルモノトス

○艦船所在

▲印ハヘホノ
指定フ要セズ

○十一月十日前十時調

【横須賀】春日▲、神威▲、三隈▲、足柄▲、高橋▲、陸奥、

鈴谷、愛宕、夕張、長門、鳥海、摩耶、

△赤城、劍崎、山城、那珂

島風▲、灘風▲、夏雲▲、村雨、春雨、夕立、

五月雨▲、臘▲、潮、曙、天霧、朝霧、

夕霧、曉、伊七▲、伊二二三

富士▲、膠州、洲崎▲、鳴戸

(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)▲

【長浦】沖島

沙風、野風、波風、朝雲、山雲、響、

雷、電、帆風、雲霧

呂五四、呂五五、呂五六、呂五九、伊四、

△呂五七、呂五八、伊六、伊五、伊二四

【石川島】芝浦

横濱

迅鯨▲、五十鈴

(香取)▲、(鹿島)▲

北上▲、連▲、狹霧

(不知火)▲、(早潮)▲

【館山】澤風▲

【大湊】
葵

大泊、室戸

【函館】

矢矧、淺間、淀、比叡、神通、日向、熊野、

鳳翔、最上、嚴島、古應、加古、鬼怒、

龍巖、大鰐、伊勢、扶桑、大井、長鰐、

白鷺、初鷺

夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、

磯波、初雪、東雲、叢雲、薄雲、霞、

△波、矢風、菊、陽炎

呂五一、呂五三、呂二六、呂二七、

呂二八、伊五一、伊六七、伊七〇、

△伊六九、伊八、△伊五五、伊五三、

伊五四、伊七五、伊七四、伊七三、

伊七二、伊七一、伊伊一、伊二、伊三、

△伊一二、伊二二、伊六一、伊六二、

伊六四

【大阪】雁

攝津、明石、隱戸、間宮、佐多

(伊九)▲、(伊一五)▲、(伊一六)▲

天龍▲

△彌生、如月、夕月、卯月、

(黑潮)▲、(夏潮)▲、(隅田)▲

木曾▲

伊六八、伊五七、伊五六、伊五八▲

海軍公報(部内限)第三千三百五十六號 暦和十四年十一月十日

一一九六

(初風)▲(伊二〇)▲(伊二一)▲(伊一九)▲
(伊一〇)▲

神風▲(玉)芙蓉▲朝顏▲刈萱▲

鶴見▲(玉)呂六二▲

[因ノ島]文月▲水無月▲臯月▲

[江田内]舞鶴▲平戸▲

吾妻▲多摩▲利根▲筑摩▲龍田

白雲▲羽風▲太刀風▲秋風▲夕風

伊五二(親潮)▲(天津風)▲

常磐▲那智▲青葉▲衣笠▲加賀▲能登呂

千歳▲榛名▲名取▲阿武隈▲由良

△川内、飛龍、鳩島▲金剛▲

梨、竹、榧、桃、柳、檜、童、蓼、蓬、菱、

草▲柿▲榆▲初春長月、大湖▲

荒湖▲朝潮、満潮▲望月、睦月、海風、

菊月、三日月、江風、涼風、山風、

追風▲疾風▲

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、

呂六六、呂六八、伊六六▲呂六五、

伊六五、伊六六、伊六七、呂三三、

伊六〇、伊五九▲呂三四、呂三一、

掃一、掃二、掃四、掃五、

千鳥、掃一、

敷島▲早鞆

(雪風)▲(磯風)▲(伊一八)▲

長崎

羽黒▲

鎮海

浦波

ヤルート

磐手

八雲

知床

作業地

出雲、安宅、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、

熱海、二見、伏見、瑞穂、球磨、妙高、

長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、

蒼龍、駒橋

栗、梅、蓮、夕風、朝風、

白雲、有明、夕暮、時雨、峯風、沖風、

若葉、子日、初霜、春風、旗風、吹雪、

白雪

伊六三

隼、鶴、鴻、鵠、鷺、鳩、雉、友鶴、

初雁、真鶴

△掃一、掃五、掃一三、掃一六、

△掃一七、掃一八、掃二〇、掃八、掃九、

△朝日、襟裳、野島

伊六三

△掃一二

△綾波

(九日營陵島發→鎮海)

海軍公報

(部内限)第三千三百五十七號

昭和十四年十一月十一日(土)

海軍大臣官房

○辭令

○司令潛水艦變更
第三十潛水隊司令ハ十一月八日司令潛水艦ヲ伊號第六十七潛水艦ヨリ伊號第六十六潛水艦ニ變更セリ

○雜款

通信書記 收野 豪一
第三海軍軍用郵便所員ヲ命ス(大日本海軍省)○司令潛水艦變更
第三十潛水隊司令ハ十一月八日司令潛水艦ヲ伊號第六十七潛水艦ヨリ伊號第六十六潛水艦ニ變更セリ○特設運送船朝光丸行動豫定變更
着地名
横須賀

十一月三日

發

地名
大阪

十一月五日

地名
吳舞鶴

十一月六日

發

○特設運送船金龍丸行動豫定變更
着地名
因島

十一月十二日

發

○司領驅逐艦變更
第一聯合特別陸戰隊司令ハ十一月八日將旗ヲ第十四號地名
佐世保

十一月二日

發

○司領驅逐艦變更
第十八驅逐隊司令ハ十一月十日司領驅逐艦ヲ一時収ヨ地名
佐世保

十一月四日

發

○司領驅逐艦變更
リ陽炎ニ變更セリ地名
佐世保

十一月六日

發

○司領驅逐艦變更
第二十二驅逐隊司令ハ十一月八日司領驅逐艦ヲ一時文地名
佐世保

十一月十四日

發

○司領驅逐艦變更
月ヨリ臯月ニ變更、同日復歸セリ地名
佐世保

十一月廿九日

發

1075

海軍公報（部内限）第三千三百五十七號

昭和十四年十一月十一日

一二九八

十一月八日通牒欄軍人軍屬現在員數調査式中

西 戸 鯨	十四日	十六日
吳 橫 須 賀	十七日	十九日
佐 世 保	二十一日	二十四日
	二十五日	二十七日
	二十八日	三十日

合 計

合 計

ノ誤

○郵便物發送先

自

今

第三十潛水隊宛
伊號第六十五、六十六潛水艦宛佐 世 保
吳 佐 世 保

○爲替拂渡局指定ニ關スル件照會
當隊宛ノ通常爲替軍事爲替ノ拂渡局ヲ「鹿島」郵便局
ト指定セラルル向相當有之候處同局ハ當隊ト隔在シ其
ノ都度拂渡局變更ヲ要スル次第ニ付自今左記ニ指定セ
ラル様御留意相成度

記

茨城縣稻敷郡木原郵便局
(本隊所在地) 茨城縣稻敷郡安中村
(鹿島海軍航空隊)

○正誤

()

○艦船所在

▲印「ハボノ
指定ノ要セズ」

○十一月十一日前十時調

【横須賀】

春日△神威△三隈△足柄△口高雄△

陸奥、鈴谷、愛宕、夕張、口長門、摩耶、

△赤城、口劍崎、山城、口那珂、迅鯨

島風△灘風△夏雲△口村雨、春雨、夕立、

五月雨△口曉△潮、暗、口天霧、朝霧、

夕霧、口晩、△櫻

伊七△伊一二三、伊一二四

富士△膠州、洲崎△鳴戸

(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)△

【函館】
大泊、室戸

萩△矢矧、浅間、淡、比叡△神通△日向、熊野△

鳳翔、最上△嚴島△吉鷹、加古、鬼怒、

龍巖△口大鯨、伊勢、扶桑△大井、長鯨、

白鷗、初鷹

夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、

磯波、初雪、口東雲、叢雲、薄雲、霞△

伊鐵△矢風、菊

呂五一、呂五三、呂二六△呂二七△

呂二八△伊五一、伊六七△伊七〇、

伊六九△伊八△伊伊五五△伊五三△

伊五四△伊七五△伊七四△伊伊七三△

伊七二△伊七一、伊伊一、伊二、伊三、

伊一二一、伊一二三、伊伊六二、伊六一、

伊六四△

雁、攝津△明石△隱戸、問宮、佐多

(伊九)△(伊一五)△(伊一六)△

【大坂】
大泊、室戸

豊後水道△陽炎

天龍△

(黑潮)△(夏潮)△(隅田)△

木曾△

伊六八△伊五七△伊五六△伊五八△

【長浦】 沖島	汐風、口野風、波風、口朝雲、山雲、雷、 電、帆風、峯雲
【横濱】 石川島	呂五四、呂五五、呂五六、呂五九、伊四、 呂五七、呂五八、伊六、口伊五
【浦賀】 北上△	五十鈴△(香取)△(鹿島)△
【漣】 漣△	(不知火)△(早潮)△(時津風)△
【大湊】 大湊△	(大湊)△(大湊)△(大湊)△
【館山】 館山△	(館山)△(館山)△(館山)△
【大山】 大山△	(大山)△(大山)△(大山)△
【葵】 葵△	(葵)△(葵)△(葵)△

海軍公報（部内限）第三千三百五十七號 昭和十四年十一月十一日

一一三〇〇

【相生】 （初風）▲（伊二〇）▲（伊二二）▲（伊一九）▲ (伊一〇)▲	（雪風）▲（磯風）▲（伊一八）▲
【玉】 （因ノ島）□文月▲ 水無月▲ 阜月▲ （江田内）□舞鶴	（鎮海）□綾波、浦波 （ヤル）ト □磐手、八雲
【佐世保】 （親潮）▲（天津風）▲ 常磐、那智▲青葉▲衣笠▲加賀、能登呂、 千歳、榛名、名取、阿武隈▲由良、 川内、飛龍、鷲島▲金剛▲ 梨、竹、榧、桃、柳、檜、堇、蓬、菱、 芭草▲柿▲榆▲初春、長月、大潮▲ 荒潮▲朝潮、滿潮▲望月、睦月、海風、 芭菊月、三日月、江風、涼風、山風、 追風▲疾風▲	【長崎】 （作業地）□出雲、△安宅、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、 熱海、二見、伏見、□瑞穂、球磨、口妙高、 長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、 蒼龍、駒橋、烏海 栗、梅、蓮、夕風、朝風、松風、朝風、 白露、有明、夕暮、時雨、峯風、沖風、 若葉、子日、初霜、春風、旗風、吹雪、 白雪 伊六三
【千鳥】 （呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、 呂六六、呂六八、伊六六、呂六四、 伊六五、伊六七、呂六五、 伊六〇、伊五九、呂三四、呂三三、 千鳥、敷島） 早鞆	【知床】 （航海中） 尻矢（十月二十三日長浦發—羅府） 石廊（十月三十日「ホノルル」發—吳） △掃一二（八日佐世保發—作業地） △掃二（掃一、掃二、掃三、掃四、掃五（十日佐世 保發—横須賀））

海軍公報

(部内限)第三千三百五十八號

昭和十四年十一月十三日(月)

海軍大臣官房

○令達

校各特修科學生ヲ採用ス

昭和十四年十一月十三日

海軍大臣

官房機密第六九九三號
左記ニ依リ海軍砲術學校、海軍水雷學校、海軍潛水學

記

特修科目	特修科目			
	對空射擊術			
修業期間	入校期日	採用員數	在籍鎮守府	横須賀
			五 <small>(内二名ハ舞鶴 スルコト ベキ者ヨリ採用ル)</small>	吳 佐 世 保
特修科目	水上艦艇水中測的術	掌砲兵又ハ掌測的兵出身ノ兵科特務士官又ハ准士官ニシテ對空射擊術ヲ特修セシムルニ適スル者	約五月半	昭和十四年十一月二十日

海軍公報(部内限)第三千三百五十八號 昭和十四年十一月十三日

二三〇一

海軍公報(部内限) 第三千三百五十八號

昭和十四年十一月十三日

一三〇二

生 科 學		特 修 科 學		特 修 科 目		採 用 資 格		採 用 員 數		在 籍 鎮 守 府		橫	須	賀	吳	佐 世 保
修 業 期 間	入 校 期 間	採 用 員 數	在 籍 鎮 守 府	横	須	賀	吳	佐 世 保	横	須	賀	吳	佐 世 保			
修業期間	入校期間	採用員數	在籍鎮守府	横	須	賀	吳	佐世保	横	須	賀	吳	佐世保			
約五月	昭和十四年十一月二十日	掌電信兵出身ノ兵科特務士官又ハ准士官ニシテ潜水艦水中測的術ヲ特修セシムルニ適スル者	舞鶴鎮守府在籍者ヨリ採用スルコト	一	一	一	一	二	二	三	三	二	一	一		

○ 雜 款

地名	着	發
吳戸	十一月十六日	十一月十五日
軍艦羽黒宛	十一月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 同十八日迄ニ同	長佐世崎
其ノ後ハ	長佐世崎	長佐世崎
第七潜水隊宛	十一月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 其ノ後ハ	長佐世崎
第二水雷战队司令部宛	十一月十五日以後到達見込ノモノハ 神戸市東淡川區川崎町 神戸川崎造船所内	吳
軍艦神通		
○司令潛水艦復歸		
第二十四潜水隊司令ハ十一月九日司令潛水艦ヲ呂號第六十三潛水艦ヨリ呂號第六十四潛水艦ニ變更、即日復歸セリ		
○司令潛水艦變更		
第三十潛水隊司令ハ十一月八日司令潛水艦ヲ伊號第六十七潛水艦ヨリ伊號第六十六潛水艦ニ變更セリ		
○軍艦羽黒行動豫定		
地名	着	發
長崎	十一月十五日	十一月十五日
佐世保	十一月十五日	十一月十九日
長崎	十一月十九日	
○第七潛水隊行動豫定		

海軍公報(部内限)第三千三百五十八號

昭和十四年十一月十三日

一三〇三

○艦船所在

▲印ハ「ヘホノズ」
指定ヲ契セズ

○十一月十三日午前十時調

【横須賀】

春日▲、神威▲、三隈▲、足柄▲、口高雄▲、
陸奥、鈴谷、愛宕、夕張、口長門、摩耶、
△赤城、△劍崎、山城、△那珂、迅鯨、
五十鈴

【長浦】

島風▲、灘風▲、夏雲△、村雨、春雨、夕立、
五月雨△、口腕▲、潮、曇、口曉、△響、
澤風

伊七▲

伊一二三、伊一二四、
富士▲、膠州、洲崎▲、鳴戸、室戸
(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)▲

沖島

沙風、口野風、波風、口朝雲、山雲、雷、
電、帆風、峯雲

呂五四

呂五六、呂五六、伊四、口呂五七、
呂五八、伊六、口伊五

口掃三

掃六、掃一、掃二、掃四、掃五

口掃六

掃三、掃二、掃四、掃五

口掃七

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃八

掃三、掃二、掃四、掃五

口掃九

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十一

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十二

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十三

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十四

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十五

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十六

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十七

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十八

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃十九

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十一

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十二

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十三

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十四

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十五

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十六

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十七

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十八

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃二十九

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃三十

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃三十一

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃三十二

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃三十三

掃一、掃二、掃四、掃五

口掃三十四

掃一、掃二、掃四、掃五

【國館】

大泊
萩▲

【吳】

矢矧、淺間、淀、比叡、神通、日向、熊野、
鳳翔、最上、嚴島、古應、加古、鬼怒、
龍驤、△大鰐、伊勢、扶桑、大井、長鯨、
△白鷺、初鷹

【大阪】

夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、駒波、
磯波、初雪、口東雲、叢雲、薄雲、霞、
口霞、矢風、菊、陽炎、
呂五一、呂五三、呂二六、呂二七、
呂二八、伊五一、伊六七、伊七〇、
口伊六九、伊八、口伊五五、伊五三、
伊五四、口伊七五、伊七四、口伊七三、
伊七二、伊七一、口伊一、伊二、
口伊一二、伊一二三、口伊六二、伊六二、
伊六四

【神戶】

攝津、明石、隱戸、間宮、佐多
(伊九)▲、(伊一五)▲、(伊一六)▲
天龍▲、
木曾▲、
(伊六八)▲、口伊五七、伊五六、伊五八▲
(初風)▲、(伊二〇)▲、(伊二二)▲、(伊一九)▲
(伊一〇)▲

【大湊】

葵▲

【横濱】

賀▲

【不知火】

(早潮)▲、(時津風)▲

【相生】 神風▲ □芙蓉▲ 朝顔▲ 刈萱▲	【鎮海】 絆波、浦波
【玉】 呂六二▲	【作業地】 □出雲、△安宅、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、 熱海、二見、伏見、□瑞穂、球磨、□妙高、 長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、 蒼龍、駒橋、島海
【江田内】 平戸▲	栗、梅、蓮、夕風、朝風、□松風、朝風、 白雲▲ 羽風、太刀風、□秋風、夕風
【舞鶴】 吾妻▲ 多摩▲ □利根▲ 筑摩▲ 龍田 伊五二▲	□白露、有明、夕暮、時雨、峯風、沖風、 若菜、子日、初霜、□春風、旗風、□吹雪、 白雪
【親潮】▲ (天津風)▲ 常磐、那智▲ 青葉▲ 衣笠▲ 加賀、能登呂、 千歳、樺名、名取、△阿武隈▲ 由良、 △川内、飛龍、霧島▲ □金剛▲	【航海中】 尻矢 (十月二十三日長浦發—羅府へ) 石廊 (十月三十日「ホノルル」發—吳) △磐手、八雲、知床 (十一日「ヤルート」發—トラ ク) △朝日、襟裳、野島
【長崎】 千鳥 羽黒▲ □早鞆 敷島▲ (雪風)▲ □(磯風)▲ (伊一八)▲ (伊一四)▲	伊三 (十一日吳發—佐伯へ) 呂五九 (十一日長浦發—大湊へ) △天霧、朝霧、夕霧 (十二日横須賀發—吳へ)

海軍公報

(部内限)第三千三百五十九號

昭和十四年十一月十四日(火)

海軍大臣官房

○通牒

官房第五七八九號

昭和十四年十一月十四日

海軍次官

軍務二機密第二四四二號

昭和十四年十一月十日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

海軍用石炭ノ消費節約ニ關スル件申進

部外氣象機關利用ニ關スル件申進

本年度本邦石炭產額ハ諸種ノ原因ニ依リ豫定ノ出炭量ニ達セザルニ反シ需要額ハ却テ増加セル結果供給之ニ伴ハズ需給狀況窮迫セル現狀ナルニ鑑ミ官民ヲ通シ消費規正ヲ勵行シツツアル次第ナル處官廳用石炭ノ消費ニ於テモ各用途ニ從ヒ少クトモ一般民間ノ消費規正率以上ノ節約ヲ實施スル要有之候ニ就テハ本年度煖房用石炭ノ使用ニ關シテハ煖房使用期間ノ短縮及焚燒竈ニ通氣調節ノ合理化等適當ナル措置ヲ講ジ例年ニ比シ約三割七分以上ノ節減ヲ勵行セラル様配慮相成度追テ東京地方ニ於テハ煖房使用期ハ其ノ前後ヲ通ジ

例年ニ比シ約一箇月ヲ短縮スルモノトシ概ネ十二月十日頃ヨリ翌年三月十五日頃迄ノ期間ニ限リ使用ノコトト了知相成度

海軍公報(部内限)第三千三百五十九號

昭和十四年十一月十四日

一三〇七

海軍公報（部内限）第三千三百五十九號

昭和十四年十一月十四日

一三〇八

ラルル様考慮相成度 追テ右連絡ハ從來通海軍省軍務局ヲ經由スルモノト 了知相成度尙右連絡機關ノ内容ハ逐次強化セシメラ ルル方針ニ付爲念申添候	記	海軍大佐 友成佐市郎（羽黒） 同 入船直三郎（艦本） 海軍中佐 佐々木靜吾（同） 同 植田松太郎（羽黒） 海軍少佐 塙田照之（航本） 收内忠雄（同）
連絡將校 中佐 一（水路部部員ヲ以テ充テアリ） 助 手 技手 二（水路部ヨリ派遣中央氣象） 扶生 三（臺内ニ勤務中）	（各通）	海軍機関中佐 同 同 小瀧久雄（同） 香月弥六（同） 菅野政次（同） 松木正彦（艦本） 梶原正夫（艦本監） 稻川精一（艦本） 坪田隆平（艦本監）
海人機密第八一號 昭和十四年十一月十三日	海軍省人事局長	同 同 同 同 同 同 同 同
關係各所轄長殿 定期進級時期變更ニ關スル件通知 本年十月七日海人機密第六九號申進中召集中ノ豫備士官ノ進級（任用）ハ十二月中旬ニ行ハルルコトニ改メ ラレ候	海軍造船中佐 同 海軍造機少佐 同 海軍技師 松尾孝（同）	同 同 同 同 同 同 同 同
○辭令 第一課勤務ヲ命ス（ <small>セイヨウ</small> 海軍省軍務局） 海軍少佐 阿部 茂	○將旗移揚 佐世保防備戰隊司令官ハ十一月八日將旗ヲ第十二號掃海艇ヨリ第十一號掃海艇ニ移揚セリ	同 同 同 同 同 同 同 同
○雜款	軍艦羽黒審議委員ヲ命ス（ <small>セイヨウ</small> 海軍艦政本部）	同 同 同 同 同 同 同 同

○將旗復歸 吳防備戰隊司令官ハ十一月十二日將旗ヲ陽炎ヨリ白鷹ニ復歸セリ	自今	吳軍艦神通
○郵便物發送先 第二水雷戰隊司令部宛		
驅逐艦矢風宛 十一月十六日迄ニ到達見込ノキノハ 同二十一日迄キ同	吳佐伯	
其ノ後ハ		
第二十九潛水隊（伊六一、六二、六四潛）宛 自今	佐世保	
特務艦佐多宛 十一月十五日迄ニ到達見込ノモノハ 其ノ後ハ		
大分縣佐伯海軍航空隊氣付 十一月七日本艦軍艦多摩宛郵便物發送先ハ取消ス		

海軍公報（部内限）第三千三百五十九號 昭和十四年十一月十四日

一三〇九

○艦船所在

▲印「ハホホ」
指定ヲ要セズ○十一月十四日前十時調
【横須賀】春日▲神威▲三隈▲足柄▲口高森▲

陸奥、鈴谷、愛宕、夕張、口長門、摩耶、

△赤城、△劍崎、山城、△那珂、迅鯨、

五十鈴、駒橋

島風▲灘風△口村雨、春雨、夕立、

五月雨▲口臘△潮、晴、口曉、△響

伊七△伊一二三、伊二三四

富士▲膠州、洲崎▲鳴戸、室戸

(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)▲

沖島

沙風、口野風、波風、口朝雲、山雲、雷、

電、帆風、峯雲、夏雲▲

呂五四、呂五五、呂五六、伊四、口呂五七、

呂五八、伊六、口伊五

口掃三、掃六、掃一、掃二、掃四、掃五

沼風▲

北上▲

口横濱△

浦賀▲

△香取▲(鹿島)▲

漣△狹霧

(不知火)▲(早潮)▲(時津風)▲

大湊△葵

大泊

【函館】萩▲

矢矧、淺間、淀、比叡▲日向、熊野▲
鳳翔、最上▲嚴島▲古麗、加古、鬼怒、

龍驤▲口大鯨、伊勢、扶桑▲大井、長鯨、

口白鷗、初鷗

夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、

磯波、初雪、口東雲、叢雲、薄雲、霞△

口霞△矢風、菊、陽炎

呂五一、呂五三、呂二六▲呂二七▲

呂二八▲伊五一、伊六七▲伊七〇、

口伊六九▲伊八▲口伊五五▲伊五三▲

伊五四▲口伊七五▲伊七四▲口伊七三▲

伊七二▲伊七一、口伊一、伊二、

口伊一二一、伊二二三、口伊六二、伊六一、

伊六四

雁

攝津▲明石▲隱戸、問宮、佐多

(伊九)▲(伊一五)▲(伊一六)▲

天龍▲

口彌生▲如月▲夕月▲卯月▲

(黒潮)▲(夏潮)▲(隅田)▲

木曾▲

伊六八▲口伊五七▲伊五六▲伊五八▲

(初風)▲(伊二〇)▲(伊二二)▲(伊一九)▲

(伊一〇)▲

【相生】 神風 ▲ □ 芙蓉 ▲ 朝顔 ▲ 刈萱 ▲
鶴見 ▲

【玉】 呂六二 ▲
【因ノ島】 □ 文月 ▲ 水無月 ▲ 阜月 ▲
【江田内】 平戸 ▲

【別府】 神通
【舞鶴】 吾妻 ▲ 多摩 ▲ ▷ 利根 ▲ 筑摩 ▲ 龍田
白雲 ▲ 羽風、太刀風、□ 秋風、夕風
伊五二

(親潮) ▲ (天津風) ▲

常磐、那智 ▲ 青葉 ▲ 衣笠 ▲ 加賀、能登呂、
千歳、榛名、名取、△ 阿武隈 ▲ 由良、
△ 川内、飛龍、霧島 ▲ ▷ 金剛 ▲

梨、竹、榧、桃、柳、檜、堇、蓬、菱、
芭葦 ▲ 柿、榆 ▲ 初春、長月、□ 大潮 ▲
荒潮 ▲ 朝潮、滿潮 □ 望月、睦月、海風、

□ 菊月、三日月、□ 江風、涼風、山風、
□ 追風 ▲ 疾風 ▲ □ 白露、有明、夕暮、時雨

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、
呂六六、呂六八、□ 伊六六 ▲ 呂六四、
伊六五、□ 呂六三、□ 呂六七、呂六五、
千鳥 哌一 伊六〇、伊五九 ▲ □ 呂三四、呂三三

(雪風) ▲ (磯風) ▲ (伊一八) ▲ (伊二四) ▲
敷島 ▲ 早鞆

【長崎】 羽黒 ▲
【鎮海】 □ 綾波、浦波
△ 热海、二見、伏見、□ 瑞穂、球磨、□ 妙高、
△ 長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、
△ 蒼龍、烏海

栗、梅、蓮、□ 夕風、朝風、□ 松風、朝風、
峯風、沖風、□ 若葉、子日、初霜、□ 春風、
旗風、□ 吹雪、白雪

伊六三

□ 雉、鶴、鴻、鵠、鷺、鳩、雉、友鶴、
初雁、□ 真鶴
△ 掃一四、掃一五、掃一三、掃一六、
□ 掃一七、掃一八、□ 掃一〇、掃八、掃九、
掃七、△ 掃一二
△ 朝日、襟裳、野島

【航海中】

尻矢 (十月二十三日長浦發—羅府)
石廊 (十月三十日「ボノルル」發—吳)
△ 帆手、八雲、知床 (十一日「ヤルート」發—トラ
ツク)(
伊三 (十一日吳發—佐伯)
呂五九 (十一日長浦發—大湊)
□ 天霧、朝霧、夕霧 (十二日横須賀發—吳)
澤風 (十四日横須賀發—館山)

海軍公報

(部内限) 第三千三百六十號

昭和十四年十一月十五日(水)

海軍大臣官房

○令達

**海軍諸例
則削除**

軍法會議ヲ第四艦隊軍法會議ノ後繼軍法會議ニ指定ス
昭和十四年十一月十五日

海軍大臣 吉田 善吾

海軍省告示第二十號中「及第五艦隊」ヲ削
第一遣支艦隊、第二遣支艦隊及第三遣支艦隊ニ艦隊軍

法會議ヲ置ク

ル

官房第五八二六號
昭和十三年官房第六九三號及昭和十四年官房第二七五
四號中「第四艦隊軍法會議」ヲ「第三遣支艦隊軍法會
議」ニ改ム

昭和十三年海軍省告示第二十號中「及第五艦隊」ヲ削
二號ハ之ヲ廢止ス

(濟)

昭和七年海軍省告示第一號及昭和十三年海軍省告示第

二號ハ之ヲ廢止ス

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣 吉田 善吾

(参照)
昭和十三年海軍省告示第二十號ハ支那方面艦隊及第五艦隊ニ、昭
和七年海軍省告示第一號ハ第三艦隊ニ、昭和十三年海軍省告示第
二號ハ第四艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置クノ件ナリ
ヲ「第一遣支艦隊軍法會議」ニ改ム
昭和十三年官房第五〇五二號中「第五艦隊軍法會議」
ヲ「第二遣支艦隊軍法會議」ニ改ム

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣

海軍省告示第二十號ノ三

第一遣支艦隊軍法會議ヲ第三艦隊軍法會議ノ、第二遣
支艦隊軍法會議ヲ第五艦隊軍法會議ノ、第三遣支艦隊

(参照) 前記官房號ハ支那事變中法務官、參謀又ハ營査配員ノ
件ナリ(昭和十三年二月十二日、八月十二日、十月五
日及同十四年五月二十六日海軍公報、部内限)

海軍公報(部内限) 第三千三百六十號

昭和十四年十一月十五日

一三一三

海軍公報（部内限）第三千三百六十號 昭和十四年十一月十五日

三三一四

官房機密第七〇六四號
支那事變中第一遣支艦隊、第二遣支艦隊、第三遣支艦

隊ノ司令部及同戰隊司令部ニ對スル兵器ノ供給及貸與
ニ關スル所管海軍軍需部ヲ佐世保海軍軍需部ト定ム
追テ昭和十三年官房機密第八二四號及同第五五四二
號ハ之ヲ廢止ス（済）

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣

官房機密第八二四號、同第五五四二號ハ事變中第五、第四艦隊
司令部及同戰隊司令部所管海軍軍需部ノ件

官房機密第二四一八號ノ五
臨時軍事費整理規程中左ノ通改正ス

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣

第一條第二號中「第二、第三、第四、第五艦隊」ヲ
「第二艦隊及第一、第二、第三遣支艦隊」ニ改ム
第二條第一號（二）、第三號（二）、第四號（三）、第六號（二）、第
八號（三）及第一號（一）中「第二、第三、第四、第五、支
那方面艦隊司令部、第二、第三、第四、第五艦隊」ヲ
「第二艦隊司令部、第一、第二、第三遣支艦隊司令部、

支那方面艦隊司令部並ニ第二艦隊、第一、第二、第三
遣支艦隊」ニ改ム

官房機密第七〇六五號

當分ノ間廣東方面特別根據地隊主計長ヲ橫須賀海軍港
務部兵備品會計官吏トシ廣東方面ニ要スル港用品ノ保
管出納ヲ掌ラシム

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣

本年官房機密第四一五號ハ之ヲ廢止ス（済）

官房機密第七〇六六號

本年十一月十五日艦隊編制其ノ他改定施行ノ際現ニ左
記上欄ノ廳ノ職名ヲ有スル者ハ特ニ發令セラルモノノ
ノ外別ニ僻令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セ
ラレタル義ト心得ベシ

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣

第三艦隊
(現ニ支那方面艦隊ノ職名ヲ併)

支那方面艦隊

第四艦隊	第三遣支艦隊	第三根據地隊
第五艦隊	第二遣支艦隊	橫須賀鎮守府第二特別陸戰隊
第六戰隊	第八戰隊	廈門方面特別根據地隊 (從前司令部附タリシ者ハ隊附)
第十一戰隊	第一遣支艦隊	第一防備隊
第一潛水戰隊	第一潛水戰隊	第四根據地隊
第二潛水戰隊	第四潛水戰隊	吳鎮守府第五特別陸戰隊
第十六驅逐隊	第三潛水戰隊	南京基地隊
第四十一驅逐隊	第九驅逐隊	海南島根據地隊
第二十四潛水隊	第三十二驅逐隊	漢口方面特別根據地隊
第一聯合特別陸戰隊	第六防備隊	漢口方面特別根據地隊
橫須賀鎮守府第一特別陸戰隊	第五防備隊	第十五防備隊
佐世保鎮守府第五特別陸戰隊	第四防備隊	第十六防備隊
青島方面特別根據地隊 (從前司令部附タリシ者ハ隊附)	第三防備隊	第十三防備隊
廣東方面特別根據地隊 (從前司令部附タリシ者ハ隊附)	第五砲艦隊	第十四砲艦隊
第一根據地隊	第十三砲艇隊	第十五砲艦隊
第二根據地隊	特設砲艦首里丸	九江基地隊
第三防備隊	第一港務部	特設水雷母艦首里丸
	上海港務部	上海港務部

海軍公報（部内限）第三千三百六十號

昭和十四年十一月十五日

一三一五

海軍公報（部内限）第三千三百六十號 昭和十四年十一月十五日

一三一六

官房機密第七〇五三號
昭和十三年官房機密第五六四三號一中「艦船部隊等ニ
於ケル経費支拂ハ」ノ下ニ「特命ニ依ルモノヲ除キ」

ヲ加フ

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣

（參照）昭和十三年官房機密第五六四三號ハ軍用手票使用ニ關
スル件ナリ

○通牒

官房第五八〇九號

昭和十四年十一月十五日

海軍省副官

官房第五七〇五號

昭和十四年十一月十五日

海軍省副官

關係各廳長殿
航空加俸支給ニ關スル件通牒
達第百九十八號ヲ以テ航空加俸支給規則改正相成候處

左記各項ノ航空勤務ニ從事スル場合ハ特ニ危險ナル航
空試験ニ從事スルモノトシテ同規則第一表記事欄第二

號ヲ適用シ月額甲ヲ受クル者ニ付テハ特ニ上申ヲ要セ
ズ所轄長ニ於テ増給シ得ルコトニ定メラレ候

來十一月十二日長崎縣東彼杵郡大村灣時津海岸、十一

追而昭和三年官房第二三七一號省副官通牒ハ廢止致
候 (著)

記

- 一、艦船ニ於ケル艦發又ハ艦着
- 二、陸地（島嶼又ハ所屬艦船ヲ含ム）ヲ距ル六十浬（二
箇以上ノ發動機ヲ裝備スル飛行機ニ在リテハ百五十
浬以上）ノ海上ニ飛行スル場合
- 三、出發地ト到達地間ノ航程四百浬以上ヲ飛行スル場
合
- 四、夜間（日沒一時間後ヨリ）機上作業ノ爲三十分以上飛
行スル場合
- 五、六千米以上ノ高空ニ於テ二十分以上飛行スル場合
- 六、特命ニ依ル落下傘降下

關係各廳長殿
報國號飛行機要目發表範圍及寫真撮影ニ
關スル件通牒

月十五日福岡縣糟屋郡博多灣箱崎海岸、十一月十七日
長崎縣佐世保港務部内ニ於テ夫々命名式舉行豫定ノ報
國號飛行機ノ要目發表範圍ニ關シテハ左記ニ依ルコト
ト了知相成度

記

一、報國號飛行機要目發表範圍

(イ) 報國第三三〇號（第二長崎縣民號）（十一月十三日）

同 第二九二號（沖ノ島號）（同月十五日）

同 第三四三號（第二玉屋號）（同月十五日）

同 第三一一號（第二佐世保號）（同月十七日）

同 第三二七號（佐鎮記念博號）（同月十七日）

水上偵察機

機種 全幅 座席 全長

一一〇米

八・五米

機種 全幅 座席 全長

四・〇米

(ロ) 報國第三四一號（第一玉屋號）（同月十五日）

機種 艦上爆擊機

全幅 座席 全長

九・四米

全高 三・九米

二、寫真撮影 特ニ許可ヲ得タルモノノ外禁止

○辭令

軍艦榛名在役艦タル間同艦長在職中特別俸ヲ賜フ
海軍大佐 西村 祥治

軍艦比叡在役艦タル間同艦長在職中特別俸ヲ賜フ
海軍大佐 阿部 孝壯

軍艦陸奥在役艦タル間同艦長在職中特別俸ヲ賜フ
海軍大佐 保科 善四郎

軍艦伊勢在役艦タル間同艦長在職中特別俸ヲ賜フ
海軍大佐 大森 仙太郎

軍艦大佐 草鹿 龍之介

軍艦赤城在役艦タル間同艦長在職中特別俸ヲ賜フ
海軍大佐 田中 賴三

軍艦金剛在役艦タル間同艦長在職中特別俸ヲ賜フ
海軍大佐 加藤 成禱

名古屋監理長ヲ命ス

海軍航空本部造兵
監督官海軍大佐

兵監政本部造船造
兵監督長海軍少將

三並 貞三

海軍公報（部内限）第三千三百六十號 昭和十四年十一月十五日

一三一八

東京監理官ヲ命ス
兼造兵監督官海軍大佐 新葉亭造

平井龍吉

東京監理官ヲ命ス
兼造兵監督官海軍大佐 池内正方

鹽谷儉

福岡監理長ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

岸兵二郎

大阪監理官兼神戸監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

塩飽一郎

福岡監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

小林包一郎

大阪監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

岡本正治

福岡監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

倉本誠至

福岡監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

深井六郎

福岡監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

中垣重三

福岡監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

山森六三郎

福岡監理官ヲ命ス
海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

辻周正

室蘭監理官ヲ命ス

海軍艦政本部造兵監督官兼海軍大佐

島本万太郎

海軍高 等技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍中將 氏家長明	同
海軍技術會議議員海軍少將	杉山俊亮	(各通) 同
海軍技術會議議員海軍大佐	高木武雄	(各通) 同
海軍技術會議議員海軍少佐	中澤佑	(各通) 同
海軍技術會議議員海軍中佐	柳本高橋	柳本高橋
海軍技術會議議員海軍少佐 海軍航空本部技術會議議員ヲ命ス	森高橋	柳本香苗
	松永	柳作千隼
海軍技術會議議員海軍少佐	柳本辰吉	柳作實
海軍技術會議議員海軍少佐	高橋千隼	柳作實
海軍技術會議議員海軍中將	都築伊七	柳本道行
海軍技術會議議員海軍少將	坂本伊久太	柳本菊作
海軍技術會議議員海軍少將	御所靜	柳本啓藏
海軍技術會議議員海軍大佐	高木武雄	柳本爲次
海軍技術會議議員海軍大佐	山口儀三朗	柳本田中
海軍技術會議議員海軍大佐	小柳富次	柳本古村
海軍技術會議議員海軍大佐	伊藤安之進	柳本岡田
海軍技術會議議員海軍大佐	上阪香苗	柳本川井
海軍技術會議議員海軍大佐	高木山口	柳本山田
海軍技術會議議員海軍大佐	柳本伊久太	柳本貴志
海軍技術會議議員海軍大佐	柳本正金	柳本鈴木
海軍技術會議議員海軍大佐	柳本辰吉	柳本鈴木
海軍技術會議議員海軍大佐	柳本忠康	柳本齊藤
海軍技術會議議員海軍大佐	柳本亨	柳本忠良
海軍技術會議議員海軍大佐	柳本馨	柳本太郎
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本平太郎
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本義方
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本和義
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本三郎
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本良太郎
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本忠良
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本忠吉
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本正吉
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本久吉
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本正吉
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本貴志
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本正吉
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス	海軍技術會議議員海軍少佐	柳本正吉

海軍公報(部内限)第三千三百六十號

昭和十四年十一月十五日

一三一九

海軍公報(部内限)第三千三百六十號 昭和十四年十一月十五日

一三三〇

海軍軍事普及部委員ヲ命ス(以上^{社説}海軍省)

海軍機關少佐 上田 俊次

海軍大佐 矢 収 章

横須賀着
十一月二十日

第一課勤務ヲ命ス

海軍中佐 長屋 茂

横須賀着
十一月二十二日

第二課勤務ヲ命ス

同 川崎 松平

横須賀着
十一月二十日

第一課勤務兼第二課勤務ヲ命ス(以上^{社説}海軍省人事局)

○ 雜 款

○軍艦鎧谷行動豫定
地名着
吳 横須賀

十一月二十日

○郵便物發送先
軍艦鎧谷宛

十一月十九日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀
其ノ後ハ 吳

○郵便物發送先
第一潛水戰隊司令部宛

自今 横須賀(軍艦劍崎)

○殘務整理
第一潛水戰隊司令部殘務整理ハ第四潛水戰隊ニ於テ之ヲ行フ

○將旗復歸
第一聯合特別陸戰隊司令官ハ十一月十一日將旗ヲ第十
四號掃海艇ヨリ第一聯合特別陸戰隊司令部ニ復歸セリ

○將旗移揚
第二水雷戰隊司令官ハ十一月十五日將旗ヲ那珂ヨリ神
通ニ移揚セリ

○旗艦變更
橫須賀防備戰隊司令官ハ十一月十日旗艦ヲ響ヨリ沖島
ニ變更セリ

○艦船所在 ▲印ハセツ
指定ヲ要セズ

○十一月十五日午前十時調

【横須賀】

春日▲ 神威▲ 三隈▲ 足柄▲ 口高雄▲

陸奥、鈴谷、愛宕、夕張、口長門、摩耶、

△赤城、口劍崎、山城、那珂、迅鯨、

五十鈴、駒橋、

島風▲ 潘風▲ 口村雨、春雨、夕立、

五月雨▲ 口臘▲ 潮、曙、口曉、響

伊七▲ 伊一二三、伊二三四

富士▲ 膠州、洲崎▲ 鳴戸、室戸

(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)▲

【長浦】 □沖島

沙風、口野風、波風、口朝雲、山雲、雷、

電、帆風、峯雲、夏雲▲

呂五四、呂五五、呂五六、伊四、口呂五七、

呂五八、伊六、口伊五

口掃三、掃六、掃一、掃二、掃四、掃五

雁

【石川島】

横濱▲ (香取)▲ (鹿島)▲

口北上▲

浦賀

(不知火)▲ (早潮)▲ (時津風)▲

【大湊】 □葵

【幽館】

呂五九

萩▲

矢矧、淺間、淀、比叡、日向、熊野、

鳳翔、最上、嚴島、古鷹、加古、鬼怒、

龍驤、口大鰐、伊勢、扶桑、大井、長鰐、

白鷗、初鷹

夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、

磯波、初雪、口東雲、叢雲、薄雲、霞、

口霞、矢風、菊、口陽炎、口天霖、朝霧、夕霧

呂五一、呂五三、呂二六、呂二七、

呂二八、伊五一、伊六七、伊七〇、

伊六九、伊八、口伊五五、伊五三、

伊五四、口伊七五、伊七四、口伊七三、

伊七二、伊七一、口伊一、伊二、

伊一二一、伊二三三、口伊六二、伊六一、

伊六四

攝津▲ 明石▲ 隠戸、間宮、佐多

(伊九)▲ (伊一五)▲ (伊一六)▲

天龍▲

口彌生、如月、夕月、卯月▲

(黒潮)▲ (夏潮)▲ (隅田)▲

木曾▲

伊六八、口伊五七、伊五六、伊五八

海軍公報（部内限）第三千三百六十號 昭和十四年十一月十五日

一一一一一

（初風）▲（伊二〇）▲（伊二一）▲（伊一九）▲
（伊一〇）▲

神風▲ □芙蓉▲ 朝顏▲ 刈萱▲

相生▲ 鶴見▲

【玉】呂六二▲

【因ノ島】文月▲ 水無月▲ 阜月▲

【江田内】平戸▲

【別府】△神通
【舞鶴】吾妻▲ 多摩▲ △利根▲ 筑摩▲ 龍田

白雲▲ 羽風▲ 太刀風▲ □秋風、夕風

伊五二

（親潮）▲（天津風）▲

【佐世保】常磐、那智▲ 青葉▲ 友笠▲ 加賀、能登呂、

千歳、榛名、名取、△阿武隈▲ 由良、

△川内、飛龍、霧島▲ □金剛▲

梨、竹、榧、桃、柳、檜、董、葵、蓬、菱、

芭草▲ 柿▲ 榆▲ 初春、長月、□望月、

曉月、海風、□菊月、三日月、□江風、

涼風、山風、□追風、疾風▲ □白露、有明、

夕暮、時雨

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、

呂六六、呂六八、□伊六六▲ 呂六四、

伊六五、□呂六三、□呂六七、呂六五、

□伊六〇、伊五九▲ □呂三四、呂三三

千鳥

敷島▲ 早鞆

（雪風）▲（磯風）▲（伊一八）▲（伊二十四）▲
（長崎）羽黒▲

【鎮海】△綾波、浦波
【作業地】口出雲、△安宅、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、

熱海、二見、伏見、□瑞穂、球磨、□妙高、

△長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、

△蒼龍、烏海

栗、梅、蓮、□夕風、朝風、□松風、朝風、

峯風、沖風、□若葉、子日、初霜、□春風、

旗風、□吹雪、白雪

伊六三

□隼、鷹、鴻、鵠、鷺、鳩、雉、友鶴、

初雁、□眞鶲
掃一四、掃一五、掃一三、掃一六、

□掃一七、掃一八、□掃一〇、掃八、掃九、

掃七、掃一二

△朝日、襟裳、野鳥

【航海中】

尻矢（十月二十三日長浦發—羅府へ）
石廊（十月三十日「ボノルル」發—吳へ）

△磐手、八雲、知床（十一日「ヤルート」發—「トラ

ック」へ）

伊三（十一日吳發—佐伯へ）

△大潮、荒潮、朝潮、滿潮（十四日佐世保發—横須賀へ）

海軍公報

(部内限) 第三千三百六十一號 昭和十四年十一月十六日(木)

海軍大臣官房

○令達

官房機密第七〇六三號

昭和十四年十一月十五日

要
登
載
内
令
提

官房機密第三四一號ノ二 摘要

昭和十四年官房機密第三四一號中「第五防備隊」ヲ
「第十五防備隊」ニ改ム

昭和十四年十一月十五日

ヲ佐世保海軍港務部兵備品會計官吏トシ海南島方面ニ
要スル港用品ノ保管出納ヲ掌シシムルノ件ナリ

各鎮守府司令長官殿

練習艦艇配當ノ件訓令

昭和十五(教育)年度練習艦艇ノ指揮ニ關シ別ニ定メ
ラレザル練習艦艇ノ配當ハ別表ノ通ト心得ベシ

(別表添)

○通牒

官房機密第八六六號ノ二 摘要

本年官房機密第八六六號中「第五防備隊」ヲ「第十五
防備隊」ニ改ム

船本機密兵砲第一九七號
(昭和十四年三月十六日本冊參照)

昭和十四年十一月十三日

海軍大臣

關係各廳長殿

短八吋外膽砲用演習彈供給ニ關スル件通牒

首題ノ件自今當分ノ間八吋砲二號演習彈ヲ供給スペキ

(參照) 本年官房機密第八六六號ノ當分ノ間第五防備隊主計長
海軍公報(部内限) 第三千三百六十一號 昭和十四年十一月十六日

一三三三

海軍公報（部内限）第三千三百六十一號 昭和十四年十一月十六日

昭和十四年十一月十五日

一三三四

ニ付可然了知相成度

追テ射表ハ四十口径八糢砲滅裝藥射表（二號演習彈）

ヲ使用スルモノト了知相成度

ヲ使用スルモノト了知相成度

軍務一機密第四九六號

昭和十四年十一月十五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

海軍練習航空隊ニ於ケル教官、教員ノ第二

搭乗配置ノ標準ニ關スル件申進

海軍練習航空隊ニ於ケル飛行兵器ノ整備ニ關スル件申進
ニ研究實驗ヲ擔任スル者（飛行豫科練習生ノ教育擔任
教官、教員ヲ除ク）ノ第二搭乗配置ニ依リ搭乗ヲ要ス
ルモノハ飛行機及搭載諸兵器ノ整備教育擔任教官及同
准士官教員ノ全部並ニ同下士官教員（掌電信兵、掌航
空兵器、掌整備兵及掌工兵）ノ四分ノ一ヲ標準トス
ルコトニ定メラレ候

軍務一機密第四九七號

昭和十四年十一月十五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

班下士官種別	機種	記							
		艦	爆艦	攻艦	攻中	偵水	艇中	艇大	機練
射擊班下士官	○	○	二	一	三	一	一	一	○
雷爆班下士官	○	○	二	二	二	○	○	一	○
飛行機整備班下士官	六	六	六	六	六	四	四	四	六
	六	六	六	六	六	四	二	四	六
	六	六	六	六	六	四	二	四	六
	六	六	六	六	六	四	二	四	六
	六	六	六	六	六	四	二	四	六
	六	六	六	六	六	四	二	四	六

記事

工業部下士官ハ各航空隊二人、寫真班
下士官及計器整備班下士官ハ各航空隊

一人トス

○辭令

第二課兼第四課勤務ヲ命ス	海軍中佐 馬場 良文	軍令部出仕海軍少將 本田 忠雄
第一課勤務ヲ命ス	同 三和 義勇	臨時戦史部長ヲ免ス(母筋軍令部)
第二課兼第一課勤務ヲ命ス	同 鈴木 忠良	海軍機関大佐 玉城 直吉
第二課勤務ヲ命ス	同 古川 文次	市村 讓介
第四課勤務ヲ命ス	近藤 一聲	自今在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ
第四課勤務ヲ命ス	海軍機關中佐 大道 友雄	在大阪監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ
第三課勤務ヲ命ス	海軍主計少佐 森下 陸一	栗野 定四郎
第四課勤務ヲ命ス(以上母筋海軍省軍務局)	海軍主計少佐 茶谷 東海	在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ
艦隊経費主任出納官吏ヲ命ス	海軍主計中佐 石瀬 知定	(各通) 中垣 重三
自今在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上母筋)	在大阪監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ	辻 周正
在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上母筋)	在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ	平井 龍吉
在廣島首席監督官ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上母筋)	同 塩谷 優	市村 让介
在福岡首席監督官ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上母筋)	岸 兵二	自今在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上母筋)
在福岡首席監督官ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上母筋)	海軍機關中佐 倉本 誠至	玉城 直吉

海軍公報(部内限)第三千三百六十一號

昭和十四年十一月十六日

一三二六

海軍艦政本部

○雜款

○將旗掲揚
上海方面根據地隊司令官ハ十一月十五日將旗ヲ上海市
靶子路舊上海海軍特別陸戰隊租界隊本部ニ掲揚セリ
第三潛水戰隊司令官ハ十一月十五日將旗ヲ五十鈴ニ掲
揚セリ

○特設運送船甲谷陀丸行動豫定
地名着發
神戸十一月十二日十一月十二日
大阪十一月十四日十一月十三日
長崎十一月十七日十一月十六日
吳港十一月十九日十一月二十九日
佐世保十二月二日十二月三十日

○殘務整理
第三根據地隊司令部、第一防備隊及橫須賀鎮守府第二
特別陸戰隊ノ殘務整理ハ十一月十五日以後當隊ニ於テ
之ヲ行フ
(廈門方面特別根據地隊)
第二潛水戰隊殘務整理ハ十一月十五日以後第三潛水戰
隊司令部(五十鈴)ニ於テ之ヲ行フ

○郵便物發送先

第四艦隊司令部、千歳、第三十驅逐隊(望月、睦月)宛
十二月三十日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保

軍艦神威宛

○艦船所在

△印 指定フ要セズ

○十一月十六日午前十時調
【横須賀】春日▲神威▲三隈▲足柄▲口高雄▲

陸奥、鈴谷、愛宕、夕張、口長門、摩耶、
△赤城、△劍崎、山城、那珂、迅鯨、

△五十鈴、駒橋、

鳥風▲灘風▲口村雨、春雨、夕立、

五月雨▲口嵐▲潮、曙、口曉、響

伊一二三、伊一二四、
富士▲膠州、洲崎▲鳴戸
(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)▲

【長浦】△沖島

沙風、口朝雲、山雲、雷、電、帆風、峯雲、

夏雲▲

呂五四、呂五五、呂五六、伊四、口呂五七、
呂五八、伊六、伊七

口掃三、掃六、掃一、掃二、掃四、掃五
(香取)、(鹿島)▲

北上▲

漣▲狹霧

(不知火)▲(早潮)▲(時津風)▲

【石川島】
【館山】
【大泊】
【呂五九】

△渦風

△葵

△呂五九

【幽館】

萩▲矢矧、淺間、淀、比叡▲日向、熊野▲
鳳翔▲最上▲嚴島▲古鷹、△加古、鬼怒、
龍驤▲△大鷲、伊勢、扶桑▲大井、長鯨、
白鷹、△初鷹、

夕顏、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、
磯波、初雪、口東雲、叢雲、薄雲、霞▲

呂五一、呂五三、呂二六▲呂二七▲
呂二八▲伊五一、伊七〇、伊六九▲

伊八▲伊五五▲伊五三▲伊五四▲
伊七五▲伊七四▲伊七一▲伊七一▲
伊七三▲伊一二一、伊一二三

雁、攝津▲明石▲隱戸、間宮、佐多

(伊九)▲(伊一五)▲(伊一六)▲

天龍▲彌生▲如月▲夕月▲卯月▲

(黒潮)▲(夏潮)▲(隅田)▲

木曾▲伊六八▲伊五七▲伊五六▲伊五八▲

(伊一〇)▲(伊二〇)▲(伊二二)▲(伊二九)▲

(初風)▲(伊一〇)▲(伊二二)▲(伊二九)▲

神風▲口芙蓉▲朝顔▲刈萱▲

鶴見▲呂六二▲

玉▲呂六二▲

平戸▲文月▲水無月▲臯月▲

【相生】

伊一〇▲(伊一〇)▲(伊二〇)▲(伊二二)▲(伊二九)▲

神風▲口芙蓉▲朝顔▲刈萱▲

鶴見▲呂六二▲

江田内▲因ノ島▲

海軍公報（部内限）第三千三百六十一號 昭和十四年十一月十六日

一一一三一八

【別府】△神通
【白杵灣】伊六七

【舞鶴】吾妻、多摩、利根、筑摩、龍田
羽風、太刀風、秋風、夕風
伊五二

【佐世保】常磐、那智、青葉、衣笠、加賀、能登呂、
千歳、榛名、名取、阿武隈、由良、
川内、飛龍、霧島、金剛、羽黒

（親潮）△（天津風）△

草、柳、榆、初春、長月、望月、
睦月、海風、菊月、三日月、江風、

涼風、山風、白露、有明、夕暮、時雨
呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、
呂六六、呂三三、呂六七、
呂六五、伊六六、伊六五、呂六七、
呂三三、伊六〇、伊五九、呂三四、
△掃一一

千鳥

敷島、早鞆、
(雪風)△(磯風)△(伊一八)△(伊二十四)△

【鎮海】△追風、疾風
【作業地】△出雲、△安宅、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、
熱海、二見、伏見、△瑞穂、瑠磨、△妙高、
△長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、
△蒼龍、鳥海

栗、梅、蓮、夕風、朝風、松風、朝風、
峯風、沖風、若葉、子日、初霜、春風、
旗風、吹雪、白雪

伊六三
隼、鷗、鴻、鵠、鷺、鳩、雉、友鶴、
初雁、△真鶴

掃一四、掃一五、掃一三、掃一六、
掃一七、掃一八、掃一〇、掃八、掃九、
掃七、掃一二

△朝日、襟裳

【航海中】

尻矢
(十月二十三日長浦發—羅府へ)

石廊
(十月三十日「ホノルル」發—吳へ)

△磐手、八雲、知床
(十一日「ヤルート」發—トラ

△綾波、浦波
(十五日鎮海發—吳へ)

白雲
(十五日舞鶴發—吳へ)

△野風、波風
(十五日横須賀發—大湊へ)

△伊六二、伊六一、伊六四
(十五日吳發—佐世保へ)

△伊一、伊二、伊三
(十五日長浦發—吳へ)

伊五
(十五日横須賀發—佐世保へ)
室戸
(十五日佐世保發—吳へ)

(別表)

(昭和十四年十一月十六日公報(部内限))

昭和十五(教育)年度練習艦艇配當表

海軍潛水學校	橫須賀海軍航空隊	海軍航海學校	海軍工機學校	海軍通信學校	海軍水雷學校	海軍砲術學校
長鯨	澤風	迅鯨				
比叡 (ヨリ月)						
沖						
島						
第九驅逐隊						
第六潛水隊						
伊號第六潛水艦						
第一掃海隊						

海軍公報

(部内限) 第三千三百六十二號

昭和十四年十一月十七日(金)

海軍大臣官房

○令達

官房第五八五四號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス
昭和十四年十一月十七日

海軍大臣

表ヲ別表ノ如ク改ム
(別表一葉添)

(昭和十二年九月一日海軍公報參照)

○辭令

海軍機關中佐 佐多 直孝 (羽 黒)

軍艦羽黒審議委員ヲ命ス
海軍機關中佐 菅野 政次

軍艦羽黒審議委員ヲ免ス (以上^{十五}海軍艦政本部)

○雜款

海軍公報(部内限) 第三千三百六十二號

昭和十四年十一月十七日

一三二九

○將旗撤去
舊第八戰隊司令官ハ十一月十五日將旗ヲ阿武隈ヨリ撤去セリ

○司令驅逐艦變更
第十八驅逐隊司令ハ十一月十四日司令驅逐艦ヲ陽炎ヨリ
リ波ニ復歸セリ

○司令掃海艇變更
第一掃海隊司令ハ十一月十四日司令掃海艇ヲ第六號掃海艇ヨリ第一號掃海艇ニ變更セリ

○軍艦比叡行動豫定
地名 着發

○旗艦指定
第一艦隊司令長官ハ十一月十五日第六戰隊ノ旗艦ヲ加古ニ、第一水雷戰隊ノ旗艦ヲ阿武隈ニ、第四潛水戰隊ノ旗艦ヲ劍崎ニ孰モ指定セリ

○旗艦變更
吳防備戰隊司令官ハ十一月十五日旗艦ヲ白鷹ヨリ初鷹ニ變更セリ

海軍公報（部内限）第三千三百六十二號 昭和十四年十一月十七日

二三三〇

○郵便物發送先 軍艦比叡宛 十一月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ 同二十八日迄ニ同 其ノ後ハ	吳別府 十一月二十六日 二十九日	十一月二十六日 二十九日
第二十四潛水隊宛	吳別府	
自今	吳	
○事務所開設 海軍航空技術廠霞ヶ浦修理工場ヲ十一月十七日左記ノ 所ニ開設セリ		
茨城縣稻敷郡阿見村 記		
○事務開始 海軍對潛學校（假稱）開設ニ關スル事務ヲ十一月二日 ヨリ海軍水雷學校内ニ於テ開始セリ (海軍對潛學校(假稱)設立準備員)		
○正誤 （斎） 本月十五日辭令欄川井巖ノ上「同」ハ「海軍技術會議 議員海軍中佐」ノ誤		

○艦船所在

指定期印「ハセツ」
フ要セズ

○十一月十七日午前十時調
【横須賀】

春日▲、神威▲、三隈▲、足柄▲、口高雄▲、
陸奥、鈴谷、愛宕、夕張、口長門、摩耶、
△赤城、△劍崎、山城、那珂、迅鯨、
△五十鈴、駒橋

島風▲、瀧風▲、口村雨、春雨、夕立、
五月雨▲、口拂▲、潮、曙、口曉、響、

口大潮、荒潮、朝潮、満潮
伊一二三、伊一二四
富士▲、膠州、洲崎▲、鳴戸
(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)▲

【長浦】

△沖島、
浦賀、
石川島、
横濱、
山、
漬風、
(香取)、
(鹿島)、
北上▲、
漣▲、
(不知火)、
(早潮)、
(時津風)、
呉五九

【函館】

大泊
萩▲
矢矧、淺間、淀、比叡▲、日向、△熊野▲、
鳳翔、最上▲、嚴島▲、古鷹、△加古、鬼怒、
龍驤▲、△大鯨、伊勢、扶桑▲、大井、長鯨、
白鷹、△神通、
夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、
磯波、初雪、口東雲、霞雲、薄雲、霞、
伊八▲、口伊五五▲、伊五三▲、伊五四▲、
伊七五▲、口伊七四▲、伊七二▲、伊七一、
口伊七三▲、口伊一二一、伊一二三、
呂六三、呂六四、呂六八

【吳】

大泊
萩▲
矢矧、淺間、淀、比叡▲、日向、△熊野▲、
鳳翔、最上▲、嚴島▲、古鷹、△加古、鬼怒、
龍驤▲、△大鯨、伊勢、扶桑▲、大井、長鯨、
白鷹、△神通、
夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、
磯波、初雪、口東雲、霞雲、薄雲、霞、
伊八▲、口伊五五▲、伊五三▲、伊五四▲、
伊七五▲、口伊七四▲、伊七二▲、伊七一、
口伊七三▲、口伊一二一、伊一二三、
呂六三、呂六四、呂六八

【大阪】

攝津▲、明石▲、隱戸、問宮
(伊九)▲、(伊一五)▲、(伊一六)▲
天龍▲、
彌生▲、如月▲、夕月▲、卯月▲
(黑潮)▲、(夏潮)▲、(隅田)▲

【相生】

伊六八▲、口伊五七▲、伊五六▲、伊五八▲
伊一、伊二、伊三
(初風)▲、(伊二〇)▲、(伊二二)▲、(伊一九)▲
伊一〇)▲
木曾▲
神風▲、口芙蓉▲、朝顏▲、刈萱▲

海軍公報（部内限）第三千三百六十二號 昭和十四年十一月十七日

【トランク】△磐手、八雲 知床

一三三三

【玉】呂六二 ▲鶴見
【因ノ島】口文月 ▲水無月 ▲臘月 ▲

江田内 ▲平戸 ▲

豊後水道 △初鷹

白杵灣 □伊六七

舞鶴 □吾妻 ▲多摩 ▲利根 ▲筑摩 ▲龍田

羽風 ▲太刀風 □秋風 ▲夕風

伊五二

（親潮）△（天津風）△

【佐世保】常磐、那智 ▲青菜 ▲衣笠 ▲加賀、能登呂、

千歳、榛名、名取、△阿武隈 ▲由良、

川内、飛龍、霧島 ▲金剛 ▲羽黒

梨、竹、櫻、桃、柳、榆、蔓、葵、蓬、菱、

葦、竹、柳、櫻、桃、長月、□望月、江風、

涼風、山風、□白露、有明、夕暮、時雨

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、

呂六六、□伊六六 ▲伊六五、□呂六七、

呂六五、□伊六〇、伊五九 ▲呂三四、

呂三三、□伊六二、伊六一、伊六四

△拂一、拂二

千鳥

敷島 ▲早鞆、襟裳

（雪風）△（磯風）△（伊一八）△（伊一四）△

（鎮海）△追風、疾風

【作業地】口出雲、△安宅、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、
熱海、二見、伏見、口瑞穂、球磨、口妙高、
△長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、
△蒼龍、鳥海

栗、梅、蓮、□夕風、朝風、□松風、朝風、
峯風、沖風、□若葉、子日、初霜、□春風、
旗風、□吹雪、白雪

伊六三

△朝日

隼、鶲、鴻、鵠、鷺、鳩、雉、友鶴、
初雁、□真鶴

掃一四、掃一五、掃一三、掃一六、
掃一七、掃一八、□掃一〇、掃八、掃九、
掃七、掃一二

（航海中）

尻矢（十月二十三日長浦發—羅府△）

石廊（十月三十日「ホノルル」發—吳△）

白雲（十五日舞鶴發—吳△）

野風（十五日横須賀發—大湊△）

波風（十五日長浦發—吳△）

（十五日横須賀發—佐世保△）

（十六日佐世保發—吳△）

（十六日吳發—作業地△）

(昭和十四年十一月十七日公報(部内限)別表)

備 考	職 員	所 屬	名 稱	海軍軍用郵便所			
				軍第 二海軍	軍第 三海軍	軍第 四海軍	軍第 五海軍
	所長 專任 一人 奏任	支那方面艦隊 佐世保鎮守府	支那方面艦隊 ノ一 第三遣支艦隊 艦	同上	第三遣支艦隊 ノ一 第三遣支艦隊 艦	同上	同上
	所長 專任 二人 奏任	第三遣支艦隊	第三遣支艦隊 ノ一 第二遣支艦隊	同上	第二遣支艦隊 ノ一 同上	同上	第一遣支艦隊 ノ一 艦
	所長 專任 三人 奏任	第二遣支艦隊	第二遣支艦隊 ノ一 第一遣支艦隊	同上	第一遣支艦隊 ノ一 第二遣支艦隊 艦	同上	第二遣支艦隊 ノ一 軍第 七海軍
	所長 專任 四人 奏任	第一遣支艦隊	第一遣支艦隊 ノ一 第二遣支艦隊	同上	第二遣支艦隊 ノ一 所長 專任 一人 奏任	同上	軍第 六海軍
	所長 專任 五人 奏任	第二遣支艦隊	第二遣支艦隊 ノ一 所長 專任 一人 奏任	同上	所長 專任 一人 奏任	同上	軍第 五海軍
一、所屬長官ハ海軍軍用郵便所ヲ設置シタル場合及移動シタル場合ハ其ノ設置艦船部隊名ヲ海軍大臣ニ報告スベシ 二、所屬長官ハ必要ニ應ジ設置所以外ノ部下艦船部隊ニ職員ノ一部ヲ派出シ軍事郵便事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得此ノ 場合ニ於テハ之ヲ第一派出所、第二派出所等ト稱ス 派出所ヲ設置シタル場合及派出所ヲ移動シタル場合ハ其ノ設置艦船部隊名ヲ海軍大臣ニ報告スベシ	所長 專任 十五人 奏任	同上	同上	同上	同上	同上	同上

海軍公報

(部内限) 第三千三百六十三號

昭和十四年十一月十八日(土)

海軍大臣官房

○令達

官房機密第五七三五號ノ二
提要

本年官房機密第五七三五號中「第四根據地隊」ヲ「海

南島根據地隊」ニ改ム

昭和十四年十一月十五日

海軍大臣

(参照) 本年官房機密第五七三五號ハ第四根據地隊工事用材料

ノ供給整理ニ關シテハ明治三十九年官房第一一八五號

水雷母艦及工作船ハ造兵造船材料茲ニ器具機械供給手

續及明治三十七年官房第二八三〇號工作船搭載材料ヲ

需品其ノ他ノ物品ノ造修ニ使用方取扱手續ヲ準用スル

ノ件ナリ

官房機密第七一三三號

提要

昭和十三年官房機密第五〇二六號ニ依リ昭和十四年度

ニ於テ採用スペキ各種練習生ノ員數中左ノ通改正ス

昭和十四年十一月十八日

海軍大臣

表中高等科航空兵武器術ノ部雷爆兵器ノ項中「三四」ヲ
「二五」ニ、「一〇」ヲ「一一」ニ、「一六」ヲ「一四」
ニ改ム

(昭和十三年九月十五日日本機密參照)

官房第五八七三號

提要

海軍生徒採用規則第十七條中採用豫定者ノ官報又以テ
告示スル件ハ當分ノ間之ヲ行ハザルコトヲ得

昭和十四年十一月十八日

海軍大臣

○通牒

軍務一機密第四九三號

昭和十四年十一月十五日

内令提載

各鎮守府參謀長殿

特別役務艦船ニハ在役艦船ニ關スル

海軍公報(部内限) 第三千三百六十三號

昭和十四年十一月十八日

一三三三

海軍公報（部内限）第三千三百六十三號 昭和十四年十一月十八日

一三三四

海軍諸法令ヲ適用セザル件申進
特別役務艦船ニハ在役艦船ニ關スル海軍諸法令ヲ適用
セザル義ト了知相成度爲念

海人機密第一號ノ二七一
昭和十四年十一月十七日

内
要
削
除
提

海軍省教育局長
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長殿

航空機ノ整備ニ從事スル無章兵ノ教育

並ニ取扱ニ關スル件廢止ノ件申進
ハ廢止セラレ候條了知相成度

○辭令

海軍大尉 吉田 俊雄

高等軍法會議判士ヲ命ス
東京軍法會議判士ヲ命ス
第一課勤務ヲ命ス
(前海軍省軍務局)

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上^前支田官海軍省經理局長)
第二航空廠ニ要スル經費支拂ノ爲支那方面艦隊經費
分任出納官吏ヲ命ス
海軍主計少佐 和泉 承司
行藤 延生

(各通)

海軍主計少佐 中馬 輓二
茶谷 東海
(^前海軍省經理局)

○雜款

○旗艦指定

第二艦隊司令長官ハ第二水雷戰隊ノ旗艦ヲ神通ニ、第
七戰隊ノ旗艦ヲ熊野ニ、第八戰隊ノ旗艦ヲ利根ニ、第
三潛水戰隊ノ旗艦ヲ五十鈴ニ十一月十五日孰モ指定リ

第八戰隊司令官ハ十一月十六日旗艦ヲ利根ニ指定セリ

○將旗掲揚
第十三戰隊司令官ハ十一月十五日將旗ヲ飛鳥ニ掲揚セ

○司令驅逐艦復歸

第十八驅逐隊司令ハ十一月十四日司令驅逐艦ヲ陽炎ヨ
リ波ニ復歸セリ

第十九驅逐隊司令ハ十一月十五日司令驅逐艦ヲ一時綾
波ヨリ浦波ニ變更セリ

○驅逐艦麥行動豫定

地	名	着	發
大	湊		
吳			

十一月二十八日 十一月二十五日

○郵便物發送先

第十四驅逐隊麥死

十一月二十四日迄ニ到達見込ノモノハ
大 湊

吳
其ノ後ハ

○正誤

十一月十五日辭令欄一三一八頁玉城直吉ノ辭令文中
「東京監理官ヲ命ス」ハ「名古屋監理官ヲ命ス」ノ誤

○艦船所在 ▲印ハハホノ
指定ヲ要セズ

○十一月十八日午前十時調

【横須賀】

春日▲ 神威▲ 三隈▲ 足柄▲ □高雄▲
陸奥、鈴谷、愛宕、夕張、□長門、摩耶、
△赤城、△劍埼、山城、那珂、迅鯨、
△五十鈴、駒橋

島風▲ 潘風▲ □村雨▲ 春雨▲ 夕立、
五月雨▲ □謹▲ 潮▲ 曙、□曉、響、
□大潮、荒潮、朝潮、満潮

伊一二三、伊一二四

富士▲ 膜州、洲崎▲ 鳴戸

(高崎)、(翔鶴)、(伊一七)▲

【長浦】

沖島

沙風、□朝雲、山雲、雷、電、帆風、峯雲、

夏雲

呂五四、呂五五、呂五六、□呂五七、

呂五八、伊四、伊六、伊七

掃一、掃二、掃三、掃四、掃五、掃六

【石川島】

沼風▲

(香取)▲

(鹿島)▲

北上▲

漣▲

渦▲

(不知火)▲ (早潮)▲ (時津風)▲

【館山】

澤風▲

【大湊】

野風、波風、□葵

呂五九

【函館】

萩▲

矢矧、

淺間、淀、比叡、日向、△熊野▲

龍驤▲

△大鯨、伊勢、扶桑▲

大井、長鯨、

白鷺、△神通、△初鷺、球磨

夕顔、吳竹、若竹、早苗、薄、藤、葛、敷波、

磯波、初雪、□東雲、叢雲、薄雲、白雲、

霞▲ □散▲

陽炎、矢風、菊、□天鏡、

朝霧、夕霧、□綾波、浦波

呂五一、呂五三、呂二六▲ 呂二七▲

呂二八▲

伊五一、伊七〇、□伊六九▲

伊八▲

伊五五▲ 伊五三▲ 伊五四▲

伊七五▲

伊七四▲ 伊七二▲ 伊七一▲

伊七三▲

伊一二一、伊二三、伊五、

呂六三、呂六八、伊六七、□伊六〇、伊五九

【大阪】

雁▲

掃一、掃二、掃三、掃四、

掃五、掃六

攝津▲

明石▲

隱戸、間宮、野島、石廊

伊九▲

(伊一五)▲ (伊一六)▲

天龍▲

彌生▲

如月▲ 夕月▲ 卯月▲

【神戸】

木曾▲

(黒潮)▲ (夏潮)▲ (隅田)▲

伊六八▲

伊五七▲ 伊五六▲ 伊五八▲

伊一、伊二、伊三

(初風)▲ (伊二〇)▲ (伊二三)▲ (伊一九)▲

(伊一〇)▲

昭和十四年十一月十八日

一三三八

【相生】 神風▲ □芙蓉▲ 朝顏▲ 刘萱▲

【玉】 鶴見▲ □呂六二▲

【因ノ島】 □文月▲ □水無月▲ □臯月▲

【江田内】

【舞鶴】

【佐世保】 吾妻▲ 多摩▲ □利根▲ 筑摩▲ 龍田
羽風▲ 太刀風▲ □秋風▲ 夕風

伊五二▲

（親潮）▲ （天津風）▲

常磐、那智▲ 青葉▲ 衣笠▲ 加賀、能登呂、
千歳、樺名、名取、△阿武隈▲ 由良、
川内、飛龍、霧島▲ □金剛▲ 羽黒
梨、竹、榧、桃、柳、柏、堇、蓼、蓬、菱、
芭▲ 枝▲ 榆▲ 初春、長月、□望月、
睦月、□菊月、三日月、□江風▲ 涼風▲
海風▲ 山風▲ □白露、有明、夕暮、時雨

呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、
呂六六、□伊六六、伊六五、□呂六七、
呂六五、□呂六四、□呂三四、呂三三、
□伊六二、伊六一、伊六四

△掃一

千鳥

【鐵海】 □早朝、襟裳
(雪風)▲ (磯風)▲ (伊一八)▲ (伊二十四)▲
【トランク】 □簪手、八雲

【羅府】 尻矢
【作業地】 □出雲、△安宅、鳥羽、勢多、堅田、比良、保津、
熱海、二見、伏見、△瑞穂、□妙高、
△長良、嵯峨、千代田、勝力、八重山、
△蒼龍、鳥海
栗、梅、蓮、□夕風、朝風、□松風、朝風、
峯風、沖風、□若菜、子日、初霜、□春風、
旗風、□吹雪、白雪

知床

△隼、鷲、鴻、鵠、鷺、鳩、雉、友禿、
初雁、□冥鶴
□掃一七、掃一八、□掃一〇、掃八、掃九、
掃七、掃一二
△朝日、佐多

【航海中】 室戸 (十五日横須賀發—佐世保)